



様式13

会派視察研修計画書

平成30年9月12日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 鈴木 みのり

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	鈴木 みのり ・ 小池 友妃子		
日時	平成30年11月13日（火）～平成30年11月15日（木）		
視察先	11月13日（火）	長崎市五島市	
	14日（水）	長崎市五島市	
	15日（木）	長崎市大村市	
研修内容	五島市…スポーツ合宿誘致事業補助金について 五島市…浮体式洋上風力発電設備について 大村市…給食アレルギー管理システムについて		
日程	11月13日（火）長崎県五島市議会…13:00～15:00 （五島市役所） 14日（水）長崎県五島市議会… 9:30～11:30 （五島市役所・現地視察） 15日（木）長崎県大村市 …10:10～11:40 （県立虹の原特別支援学校）		
交通手段	<input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関 （電車・新幹線）	<input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関 （飛行機）	<input type="checkbox"/> 自家用車

※該当するものにチェック☑してください

様式14

会派視察研修報告書

平成30年12月19日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 鈴木 みのり 印

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 2 人分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	鈴木みのり、小池 友妃子
日時	平成30年11月13日（火）～15日（木）
視察先	11月13日（火） 長崎県五島市 14日（水） 長崎県五島市 15日（木） 長崎県大村市
研修内容	五島市…スポーツ合宿誘致事業補助金について 五島市…浮体式洋上風力発電設備について 大村市…給食アレルギー管理システムについて
日程	11月13日（火） 長崎県五島市 14日（水） 長崎県五島市 15日（木） 長崎県大村市
備考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

視察研修成果報告書

平成 30年 11月 16日

議員氏名 鈴木 みのり 印

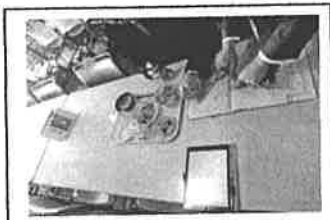
視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成 30年 11月 13日（火）～平成 30年 11月 15日（木）
- 2 視察先 長崎県 五島市・大村市
- 3 視察の種類 みらいクラブ・公明党合同会派視察
- 4 視察の成果等

3日間天候に恵まれた視察であり内容もそれとリンクしたかのような充実したものでした。まず初めは、五島市における「スポーツ合宿誘致事業補助金について」研修を受けました。

今年、ビーチコートを整備した我が碧南市、市長も「是非合宿地として利用して頂きたい」と言われました。五島市はそもそも異常な人口減から流入人口増を考え、前市長の発想からこの事業を始められたようでしたが、逆に財政面でもプラスに働き現在も拡張の方向で進められていました。ただ、県のスポーツコミッション制度を利用しながら、それを補完するものでありましたが、効果は有るようなのでぜひ当市も実施して頂けるよう12月議会で報告・提案しようと思いました。右の写真は更に充実するように陸上競技場を建設しているところですが、財政力指数0.23を聞くと複雑な心境であります。次に全国でも珍しい「浮体式洋上風力発電設備」の報告ですが、下の写真でも分かるかと思いますが、この事業は環境省の実証実験として、運よく五島市が選ばれ、実績を上げられ近々更に10基増設するとの説明でした。ブレード1枚が40mも有り年間1800世帯もの電力を送出する能力との事です。洋上に魚釣りのウキのように浮いており満干に関係なく安定した電力を生み出すもので、碧南市も先の停電を考えると、非常電源としても一考する価値は充分あるかと強く感じました。（条件は高いですが）ただ、地元の漁協の理解と協力が有ったことも大きいかなとも思いました。次に、大村市の“虹の原特別支援学校”にて県事業の「給食アレルギー管理システム」について研修を受けました。長年アレルギーに悩む親御さんにとっては生き死にの問題で、毎日の苦しみです。当然色んな対策をどこの自治体に於いてもしているわけですが、このシステムはダブルチェックをはるかに超えたもので5重のチェック体制になっており、左の写真は最終段階で、副校長先生が当日の出来上がった給食を検食される直前の物です。この日は県から4名と学校から5名視察研修に出席され、27年に文科省から示された「食物アレルギーを有する児童生徒にも、給食を提供する」と言う大原則に忠実に対応されているなと感じました。納得の視察に感謝！



会派視察研修報告書

平成 3 0 年 1 2 月 1 9 日

議員氏名 小池 友妃子

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成 3 0 年 1 1 月 1 3 日（火）～平成 3 0 年 1 1 月 1 5 日（木）
- 2 視察先 長崎県五島市、長崎県大村市
- 3 視察の種類 会派（みらいクラブ）視察
- 4 視察の成果等

①長崎県五島市・・・スポーツ合宿誘致事業補助金について

1) スポーツ合宿誘致事業補助金の概要について

人口が減少し、子どもたちのクラブ活動ができにくい状態になってきた。そこで市外から人が来ることによって町の活性化にもなるし、スポーツを通しての交流人口を増やすことができるということではじめられた。

【五島市スポーツ交流推進実行委員会事業内容】

● 補助額

- 1 団体 1 回の合宿あたり上限 100,000 円
 - (1) 1 泊あたり 2,000 円
 - (2) 児童の場合は 1,000 円
 - (3) 公共施設を利用した場合は 1 泊あたり 500 円
 - (4) 交通費 1 人あたり 1,000 円

● 補助対象

次の団体に所属する方および当該団体の指導者など五島市内での合宿に要する宿泊経費

- (1) 市外に所在する企業のスポーツ競技部
- (2) 市外に所在する小学校、中学校、高等学校および大学などのスポーツ活動団体で、当該学校などにスポーツ競技部として認められているもの
- (3) 市外に所在するスポーツ少年団
- (4) その他、市内のスポーツ活動に貢献する団体として会長が特に認める団体

※1 回の合宿における延べ宿泊数が 10 泊以上の限定。

※国、県、地方公共団体等、他の団体から助成を受けていないこと。等



2) スポーツ合宿誘致事業補助金の効果について

29年度の受け入れ団体延べ数は過去最多だった前年度に続いて2年連続100を超えた。滞在中のきめ細かな対応が好評で、選手と島民との交流や経済効果も広がっている。市スポーツ振興課によると、前年度の合宿団体の延べ数は105で、参加人数は1987人、総宿泊日数

は4422。国内トップ級の選手による子ども教室や地元チームとの交流試合、小学～高校生の本土と島の選手の練習試合の実施など費用対効果高が高くなっている。

3) 視察を終えて

碧南市もビーチバレーコートをはじめ様々なスポーツ施設を建設し、また建設する予定となっている。五島市のようにスポーツ合宿誘致などを今後考えながら、碧南市へ人が来てもらえるよう考えていかななくてはと思っていたので、一つの参考となった。

②長崎県五島市・・・浮体式洋上風力発電設備について

1) 洋上風力発電設備の経緯について

島国の日本で自然エネルギーの導入量を大幅に増やすためには、洋上風力発電の開発が欠かせないということで、長崎県の五島列島で2016年3月に、浮体式による最大出力2MW（メガワット）の洋上風力発電所が運転を開始。

2) 洋上風力発電設備の概要について

「崎山沖2MW浮体式洋上風力発電所」

場所：五島列島で面積が最も大きい福江島の沖合5キロメートルの海域

特徴：風車の回転直径は80メートル。海中の浮体を含めて全長は172メートル。

総重量は3400トン。浮体は、中空構造の長い円筒形で、おもちゃの「起き上がり小法師（こぼし）」と同じ原理で、大きく傾いても転覆しない。（大型の台風にも耐えられることも実証済み）。

3) 洋上風力発電設備の効果について

発電能力は2メガワットで、標準的な家庭の電力使用量に換算すると約1800世帯分に相当。

また洋上風力発電設備には、魚を集める効果があった。海中の浮体に海藻が茂り、小魚が集まってくるようになった。さらに小魚を求めて大きな魚も寄ってくる。海底の岩に魚が集まる「魚礁」と同じ効果となった。

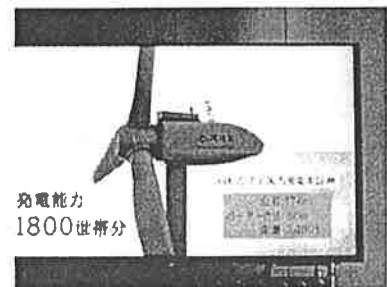


4) 今後の展望について

3年後の2033年には、10基に増設予定。

5) 視察を終えて

五島列島では、年間の平均風速が7メートル/秒を超えて、洋上風力発電に十分なエネルギーを得ることができるが、島から近い沖合でも水深が100キロメートル前後あるため、発電設備を海底に固定する着床式では建設できず、洋上に浮かべる浮体式が条件になったようだが、碧南市に置き換えると水深は100キロメートルもない。PIでの自然エネルギー発電をとおもったがそこは課題。しかし、海洋再生可能エネルギーを取り入れていくことで、①雇用創出②自主財源の確保③環境の保全ができてくることが分かったので、碧南版で前向きに考えていこうと思ってる。



③長崎県大村市・・・給食アレルギー管理システムについて

(長崎県教育庁体育保健課・長崎県立虹の原特別支援学校)

1) 給食アレルギー管理システムを始めたきっかけと経緯について

学校給食のアレルギー対策が求められたのは、2012年12月、東京・調布市の市立小学校で食物アレルギーを持つ児童がアナフィラキシーショックの疑いで死亡したのがきっかけ。文部科学省は翌年5月、「学校給食における食物アレルギー対応に関する調査研究協力者会議」を設置して対応策の策定に着手してきた。具体的には、未然防止のために食材のアレルゲン情報と児童生徒のアレルギー情報をマッチングするほか、栄養教諭など管理者と教室・給食運営の現場担当者、保護者の連絡を密にして情報を共有すること、緊急時に対応できるようアナフィラキシー補助治療剤「エピペン」の保管場所やかかりつけ医療機関の情報を共有すること、インシデント(事故などの危難が発生する恐れのある事態)が発生した場合のレポートなどがある。

長崎県がICTを活用したシステムの必要性を感じたのは、食物アレルギーを有する児童生徒は年々増加傾向にあり、食物アレルギーの対応までに情報の把握、保護者との連絡調整、調理、配膳、喫食等栄養教諭等にとって相当な業務量となってきたこと。また学校給食におけるヒヤリハット。例えば、学校で始めてアレルギーを発症したり、学校家庭との連携で確認漏れを起こしてしまったり、教室での確認不足が起こったり、修学旅行先などでの発症等は依然としてなくなるということにより、ヒューマンエラーを極限にまで減らすためには、ICTによるチェックシステムを構築し、学校給食における情報の共有化を徹底させ組織的に対応することが重要ではないかと感じたから。

2) 給食アレルギー管理システムの概要と事業費について

システムの主な概要(※別紙参照)として、①栄養教諭などがパソコンを使用して、食材のアレルゲン情報と児童生徒のアレルギー情報をマッチングして献立を確認、決定する機能。②保護者がスマートフォンを利用した対応食確認機能。献立詳細をクリックすると、材料、アレルゲン、分量も表示される。③教室や給食施設の現場職員がタブレット端末で給食搬入時の受取や配膳、喫食までを確認する機能の他、緊急時対応をクリックすると緊急時の連絡先やエピペン保管場所、かかりつけ医師の情報の確認ができるようになっている。

事業費は、平成28年度画面デザイン、システム開発業務等として370万。平成29年度システム開発業務(スマホ、タブレット機能等)として570万。

3) 給食アレルギー管理システム利用成果と今後の課題について

利用成果として、このシステムを導入することにより、アレルギー管理に関する様々な事務作業がコンピューターで処理されることで、事務作業の軽減とヒューマンエラーを未然に防止することができた。またスマートフォンなどを活用することで、保護者とのやり取りがスムーズにもなった。そしてアレルギー管理に関し、チェック体制が強化され、職員の意識向上にもつながってきた。

今後の課題としては、学校ごとの独自の管理品目やコンタミなどの表示をどのようにしていくか。また、配膳確認のダブルチェックが確実に行われたかを、管理者が確認することになっているが、配膳後のどのタイミングで行うことが一番適切であるのか。そして、タブレット導入やWI-FI整備など、システム利用に向けた各学校の環境づくりなどが挙げられていた。

4) 文部科学省からの指導と今後の展開について

平成27年3月に文部省から示された「学校給食における食物アレルギー対応指針」の中で「学校給食における食物アレルギー対応の大原則」においては、「食物アレルギーを有する児童生徒にも、給食を提供する」となっている所であり、長崎県としても可能な限り給食による対応に努めているということだった。

5) 視察を終えて

アレルギー管理に関する様々な事務作業がコンピューターで処理されることで、栄養教諭など

の献立に関わる事務の効率化が図られるだけでなく、担任の先生と保護者の間で行っていたペーパーでの確認活動などの事務作業が軽減をされたり、ICTによるチェックシステムが可能となり、ヒューマンエラーを未然に防止することができるようになってくるので、関係者の精神的負担も軽減されてくると思われるので、まずは、担当者に実際に学んできてもらい、前向きな導入を進めて頂きたいと感じた。

